

取扱注意		
解禁	テレビ、ラジオ、インターネット	9月29日(木) 17時以降
	新聞	9月30日(金) 朝刊

平成28年度 全国学力・学習状況調査（横浜市の結果）

平成28年4月19日に横浜市立小学校※6年生（約2万9千人）、中学校※3年生（約2万5千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査結果の概要をお知らせします。※義務教育学校、特別支援学校を含む

《 教科に関する調査結果 》

◎結果

Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題です。

小学校 「平均正答率（％）」

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
横浜市	72	60	79	49
全国との差	-1	+2	+1	+2
神奈川県	70	58	77	47
全 国	73	58	78	47

中学校 「平均正答率（％）」

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
横浜市	76	68	63	46
全国との差	±0	+1	+1	+2
神奈川県	75	67	62	44
全 国	76	67	62	44

※文部科学省と同様に平均正答率は整数値で表しています。

◎調査結果に特徴のある問題

全国平均正答率との差が5ポイント以上あった問題は、次のとおりです。

小学校

- ・ 国語Aの「ローマ字を書く（あさって）」問題が5ポイント低い。
- ・ 国語Aの「漢字を書く（先生にそうだんする）」問題が5ポイント低い。
- ・ 国語Bの「活動報告文において、『成果』だけでなく『課題』も取り上げて書いた効果を捉える」問題が6ポイント高い。
- ・ 算数Aの「4本のテープの中で、全体の長さを基にした時の、赤い部分の長さの割合が一番大きなテープを選ぶ」問題が5ポイント高い。
- ・ 算数Aの「バスの定員と乗客の人数の割合を、百分率を用いた図に表わすとき、基準量と比較量の関係を捉える」問題が7ポイント高い。

中学校

- ・ 国語Aの「本を活用するときに、奥付を使って必要な情報を読む」問題が6ポイント高い。
- ・ 国語Aの「漢字を読む（目上の人を敬う）」問題が5ポイント低い。
- ・ 数学Aの「分数×小数（ $2/5 \times 0.6$ ）の計算をする」問題が5ポイント高い。
- ・ 数学Aの「整数や小数の中から自然数を選ぶ」問題が5ポイント高い。
- ・ 数学Aの「一次関数 $y = 3x - 2$ の変化の割合を求める」問題が6ポイント高い。
- ・ 数学Aの「硬貨を投げる際の確率の意味を理解している」問題が7ポイント高い。
- ・ 数学Aの「垂線の作図の方法が分かる」問題が5ポイント低い。
- ・ 数学Aの「読んだ本の冊数を整理した表から最頻値を読み取る」問題が7ポイント低い。
- ・ 数学Bの「三角形が合同であることを利用して、2つの辺の長さが等しいことを証明する」問題が7ポイント高い。
- ・ 数学Bの「与えられた情報から必要な情報を選択し、相対度数を求める式を書く」問題が5ポイント低い。

《 生活習慣・学習習慣に関する調査結果 》 (抜粋)

◎結果

主体的に学ぶ態度の育成に関わる質問事項のうち、調査が始まった平成 19 年度からの経年変化が分かるものを 3 つ、今年度から追加されたものを 2 つ取り上げています。

		横浜市の小学校児童数の割合 (%)		横浜市の中学校生徒数の割合 (%)	
		平成 19 年度	平成 28 年度	平成 19 年度	平成 28 年度
経年	家で、学校の授業の予習をしている	32	42	35	43
	家で、学校の授業の復習をしている	32	46	38	49
	自分には、よいところがあると思う	69	75	57	67
追加	これまでの授業で、課題に対し、自ら考え、自分から取り組んできた	—	78 (78)	—	70 (74)
	これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、工夫して発表してきた	—	66 (64)	—	57 (58)

※ () 内は全国の児童生徒数の割合

- ・ 経年変化の分かる 3 つの質問事項については、いずれも平成 19 年度より児童生徒数の割合が高くなっている。
- ・ 今年度から追加された 2 つの質問事項については、小学校では全国の児童数の割合と比べて、同じく 2 ポイント高く、中学校では全国の生徒数の割合と比べて 4 ポイント、1 ポイント低くなっている。

◎教科に関する調査結果との相関

生活習慣・学習習慣と教科に関する調査結果との関係は、次のとおりです。

※表中の数は、国語、算数・数学の平均正答率 (%) です。

		横浜市の小学校		横浜市の中学校	
		「当てはまる」と答えた児童の正答率 (%)	「当てはまらない」と答えた児童の正答率 (%)	「当てはまる」と答えた生徒の正答率 (%)	「当てはまらない」と答えた生徒の正答率 (%)
経年	家で、学校の授業の予習をしている	71	66	70	63
	家で、学校の授業の復習をしている	70	65	68	62
	自分には、よいところがあると思う	69	59	66	60
追加	これまでの授業で、課題に対し、自ら考え、自分から取り組んできた	72	52	71	54
	これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、工夫して発表してきた	72	55	70	56

- ・ 経年変化の分かる 3 つの質問事項については、「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率が、「当てはまらない」と答えた児童生徒の正答率に比べて、5～10 ポイント高くなっている。
- ・ 今年度から追加された 2 つの質問事項については、「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率が、「当てはまらない」と答えた児童生徒の正答率に比べて、14～20 ポイント高くなっている。

《 授業改善に向けて 》

調査結果から考えられる授業改善の視点は、次のとおりです。

- ・ 基礎的な知識及び技能を身に付けるとともに、知識及び技能を活用する授業づくりが求められる。
- ・ 授業の中で、自分の考えをしっかりと持ち、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する機会を設ける。
- ・ 基礎的な知識及び技能を確実に身に付けるために、学校の実情に応じ、家庭・地域と連携した学習習慣の定着に向けた取組の推進が望まれる。